



2022年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月11日

上場会社名 株式会社マミーマート 上場取引所 東
 コード番号 9823 URL http://www.mammymart.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩崎 裕文
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 岩本 潤 TEL 048 (654) 2514
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第1四半期の連結業績 (2021年10月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	33,005	△1.6	1,761	△5.6	1,895	△6.1	1,285	△4.8
2021年9月期第1四半期	33,536	13.1	1,866	140.6	2,018	125.5	1,350	139.5

(注) 包括利益 2022年9月期第1四半期 1,284百万円 (△5.0%) 2021年9月期第1四半期 1,351百万円 (141.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	120.82	—
2021年9月期第1四半期	126.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第1四半期	62,393	30,180	48.3	2,834.58
2021年9月期	57,292	29,279	51.1	2,750.03

(参考) 自己資本 2022年9月期第1四半期 30,153百万円 2021年9月期 29,254百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	24.00	—	36.00	60.00
2022年9月期	—	—	—	—	—
2022年9月期 (予想)	—	25.00	—	25.00	50.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2021年9月期 中間配当24円 (普通配当18円 特別配当6円) 期末配当36円 (普通配当18円 特別配当18円)

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	129,000	—	4,000	△32.8	4,500	△29.4	2,800	△28.8	263.21

（注1）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

（注2）2022年9月期より、連結業績予想の売上高を営業収益に変更しております。営業収益は、連結損益計算書の売上高と営業収入を合わせたものです。当第1四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。そのため、当該会計基準等適用前の2021年9月期の営業収益に対する増減率は記載しておりません。なお、2021年9月期と同様の基準で算出した2022年9月期の売上高予想は138,500百万円（2.3%増）となります。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年9月期1 Q	10,796,793株	2021年9月期	10,796,793株
2022年9月期1 Q	159,091株	2021年9月期	159,091株
2022年9月期1 Q	10,637,702株	2021年9月期1 Q	10,633,771株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び連結子会社）は、第57期に「Enjoy Life!」（※）を基本方針として「圧倒的な地域一番店作りと高生産性店舗の構築」をスローガンに、「生鮮市場TOPへの業態転換促進」、「ローコストオペレーション」、「未来に繋げる投資」の3つを重点とした施策を進めてまいりました。

（※）「Enjoy Life!」とは、地域のお客様に毎日の食生活を通じて、健康で笑顔あふれる豊かな人生を楽しんでいただくことを応援する、マミーマート独自のコンセプトです。健康寿命（日常生活に制限のない期間）を延ばしたいという想いを胸に、健康を「カラダの健康」、「ココロの健康」、「クラシの健康」、「ミライの健康」の4つに分類し、すべてがつながることで、マミーマートに関わる全ての人生を笑顔であふれるものにしたと考えています。

[生鮮市場TOPへの業態転換促進]

当社では、新しい「生鮮市場TOP」の構築を進めております。コンセプトは「行くのが楽しくなる食の専門店」、キャッチコピーは「他にはない買い物体験を」と掲げております。「生鮮市場TOP」では鮮度・品質・価格にこだわった生鮮強化型ディスカウントに加え、日配品とグロスアリーはEDLPで地域一番価格を打ち出すとともに、惣菜は専門店に負けない味と魅力、品揃えを追究しております。

標準店の「マミーマート」から「生鮮市場TOP」への転換では、改装前後3ヶ月の平均で売上高が2倍を超えるなど、高い実績を上げております。

前期に4店舗実施し、今期は6店舗の業態転換を計画しております。当第1四半期連結累計期間は、マミーマート深井店を生鮮市場TOP深井店へ業態転換しました。

今後も、地域の特性に合わせた「マミーマート」と「生鮮市場TOP」双方の強みを生かす出店、改装を実施してまいります。

[ローコストオペレーション]

安く売れる仕組みづくりのため、生産性の高い店舗の構築を進めております。店舗や人によって異なっていた作業の標準化に努めてまいりました。LSP（レイバー・スケジューリング・プログラム）で、最適な人員配置の実現を目指すほか、工場製造商品（アウトパック）の比率を高め、惣菜では工場での完成品の出荷率を40.5%から60%に引き上げてまいります。

[未来に繋げる投資]

当社が目指す店舗像に向け、次の3つに重点的に取り組んでまいります。

1つ目は、子会社の彩裕フーズの第二工場を既存の工場に隣接して開設いたします。精肉と惣菜をそれぞれの工場製造する体制とします。製造能力を増強し、カテゴリー数を広げ、店内加工を削減し、生産性を改善します。

2つ目は、物流です。埼玉県三郷市に物流センターを新たに開設し、物流を2拠点化いたします。物流増への対応や配送コストの削減を図るほか、在庫管理の可視化も進めます。

3つ目は、DXの推進です。当社では、DXを守り（業務効率化）と攻め（競争力強化）に区分しております。守りの面は、仕入（製造）・配送・販売という一連の企業活動にかかるデータの統合により、総合的な業務プロセス最適化を目指し、業務の可視化を始めております。攻めの面は、顧客サービスや商品の付加価値向上、顧客体験の変革、ビジネスモデルの変革を目指します。第一手として、AI需要予測発注システム構築を進めており、ニーズ的確な予測、経験値の蓄積による店舗運営の安定化が期待できます。

以上3つの取り組みを通じて、新たなスーパーマーケットの創造に向けて邁進してまいります。

設備投資は、マミーマートにおいて2021年11月に生鮮市場TOP深井店（埼玉県北本市）を改装オープンしました。2021年12月31日現在の店舗数は、温浴事業・葬祭事業を含め80店舗であります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結営業成績は、営業収益33,005百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益1,761百万円（同5.6%減）、経常利益1,895百万円（同6.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,285百万円（同4.8%減）となりました。

営業収益は、当第1四半期連結累計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しており、前第1四半期連結累計期間と比較して減少しております。適用前と同じ基準の場合は、営業収益35,992百万円（前年同期比7.3%増）となります。増加要因については、新規出店による店舗増、「生鮮市場TOP」への積極的な業態転換の実施によるものです。

利益面では、政策的に売上総利益率を下げた一方で、前述のローコストオペレーションの構築により人件費の適正化が進み労働生産性を改善したものの、電気料の燃料費調整単価の高騰等による販売費及び一般管理費の増加や、前期に保険解約返戻金75百万円の計上があったことが、前年同期を下回る要因となりました。

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しております。詳細は、「2.四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）（収益認識に関する会計基準等の適用）」に記載のとおりであります。

セグメント別の営業の状況は以下のとおりです。

[スーパーマーケット事業]

当第1四半期連結累計期間は、売上高32,309百万円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益1,743百万円（同6.0%減）となりました。

[その他の事業]（温浴事業・葬祭事業）

売上高123百万円（前年同期比13.9%増）、セグメント利益18百万円（同49.1%増）となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、前期においては業績が低迷しておりましたが、昨年の緊急事態宣言解除後、営業時間の拡大等により来店客数が増えたことで、業績も回復してまいりました。

（2）財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より5,101百万円増加し62,393百万円となりました。資産の増加要因につきましては、主に当第1四半期連結会計期間末日が金融機関休業日であることに伴う現金及び預金の留保によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より4,200百万円増加し32,213百万円となりました。負債の増加要因につきましては、主に当第1四半期連結会計期間末日が金融機関休業日であることに伴う買掛金の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ900百万円増加し30,180百万円となりました。純資産の増加要因につきましては、主に利益剰余金の増加によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響は日々変化しており、ワクチン接種促進の高まりによる経済活動の再開も期待されましたが、収束時期や今後の景気、個人消費や業績動向は極めて不透明な状況であり、引き続き厳しい状況が続くと予想されます。

これらを考慮した結果、2022年9月期の連結業績予想に関しましては、2021年11月12日に公表いたしました「2021年9月期決算短信」から変更はありません。今後、業績に大きな影響を及ぼす事項が発生した場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,258	6,732
売掛金	2,063	2,738
商品	2,855	3,471
貯蔵品	17	14
その他	1,527	2,133
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	9,717	15,085
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,702	10,606
機械装置及び運搬具（純額）	147	153
土地	20,667	20,667
リース資産（純額）	2,006	1,969
建設仮勘定	1,435	1,435
その他（純額）	1,572	1,494
有形固定資産合計	36,531	36,327
無形固定資産	135	129
投資その他の資産		
投資有価証券	212	207
長期貸付金	193	184
差入保証金	6,781	6,743
賃貸不動産（純額）	393	393
繰延税金資産	2,585	2,586
その他	758	753
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	10,907	10,851
固定資産合計	47,575	47,308
資産合計	57,292	62,393

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,200	16,061
短期借入金	1,300	—
1年内返済予定の長期借入金	2,941	2,689
リース債務	266	266
未払費用	3,316	2,800
未払法人税等	1,339	675
ポイント引当金	74	—
賞与引当金	540	179
損害賠償引当金	50	50
その他	720	945
流動負債合計	18,751	23,669
固定負債		
長期借入金	2,646	2,000
リース債務	2,529	2,462
長期預り保証金	1,370	1,362
役員退職慰労引当金	352	356
退職給付に係る負債	1,332	1,350
資産除去債務	991	976
その他	37	36
固定負債合計	9,261	8,544
負債合計	28,012	32,213
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,863	2,863
利益剰余金	23,992	24,893
自己株式	△285	△285
株主資本合計	29,230	30,131
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25	22
退職給付に係る調整累計額	△2	△0
その他の包括利益累計額合計	23	21
非支配株主持分	25	26
純資産合計	29,279	30,180
負債純資産合計	57,292	62,393

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	33,203	32,432
売上原価	24,788	24,182
売上総利益	8,414	8,250
営業収入	333	572
営業総利益	8,748	8,823
販売費及び一般管理費	6,882	7,062
営業利益	1,866	1,761
営業外収益		
受取利息	11	9
受取配当金	3	4
不動産賃貸料	31	31
受取手数料	50	61
保険解約返戻金	75	—
その他	24	61
営業外収益合計	197	168
営業外費用		
支払利息	7	5
不動産賃貸費用	24	24
その他	12	3
営業外費用合計	45	34
経常利益	2,018	1,895
特別利益		
資産除去債務戻入益	—	7
特別利益合計	—	7
特別損失		
固定資産除却損	11	2
特別損失合計	11	2
税金等調整前四半期純利益	2,007	1,900
法人税等	656	614
四半期純利益	1,350	1,286
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,350	1,285

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,350	1,286
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△3
退職給付に係る調整額	4	1
その他の包括利益合計	0	△1
四半期包括利益	1,351	1,284
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,351	1,283
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

1. 代理人取引に係る収益認識

顧客への商品の販売と同時に取引先より商品を仕入れる、いわゆる消化仕入に係る収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財またはサービスへの提供における役割(本人または代理人)を判断した結果、総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。なお、当該収益を営業収入に計上しております。

2. ポイント制度に係る収益認識

当社は、スーパーマーケット事業において株式会社Tポイント・ジャパンが運営するTポイントプログラムを提供しており、自社ポイント制度と他社ポイント制度にあたるものがあります。

(1) 自社ポイント制度

①売上計上を伴ってポイントを付与するもの(契約負債計上)と、②売上計上を伴わずにポイントを付与するもの(ポイント引当金計上)があり、それぞれ会計処理が異なります。

① 従来は将来利用されると見込まれる金額をポイント引当金として計上しておりましたが、付与したポイント分を履行義務として認識し、契約負債に計上する方法に変更しております。また、ポイント引当金繰入額を販売費及び一般管理費として処理しておりましたが、売上高より控除する方法に変更しております。

② 売上の計上を伴わないポイント付与は、従来と同様、将来利用されると見込まれる金額をポイント引当金として計上し、ポイント引当金繰入額を販売費及び一般管理費として処理しております。

(2) 他社ポイント制度

従来は売上計上に伴い付与するポイントを販売費及び一般管理費として処理しておりましたが、他社に支払うポイント相当額を「第三者のために回収する額」として未払費用に計上し、その金額を売上高から控除して計上する方法に変更しております。

ポイント制度	表示方法		利用先
	連結貸借対照表	連結損益計算書	
(1) 自社ポイント制度	①	「流動負債」 その他(契約負債)	当社店舗 (一部店舗を除く)
	②	「流動負債」 ポイント引当金	
(2) 他社ポイント制度	—	「流動負債」 未払費用	Tポイントプログラム 加盟企業

3. 回数券に係る収益認識

当社グループは、その他事業(温浴事業)において、顧客に対して、回数券の販売を行っております。従来は、前受金として計上しておりましたが、履行義務として認識し、契約負債を計上する方法に変更しております。収益は、利用実績に基づき認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,219百万円減少、売上原価は2,817百万円減少、営業収入は232百万円増加、営業利益は13百万円減少、営業外収益8百万円増加、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ5百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は1百万円減少しております。

収益認識基準を適用したため、前連結会計年度の貸借対照表において「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」（従来と同様、販売費及び一般管理費で処理するものを除く）及び「その他（前受金）」は、当第1四半期連結会計期間より「その他（契約負債）」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症が会計上の見積りに与える影響について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	33,095	107	33,203	—	33,203
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	33,095	108	33,203	△0	33,203
セグメント利益	1,854	12	1,866	—	1,866

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	32,309	122	32,432	—	32,432
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	32,309	123	32,432	△0	32,432
セグメント利益	1,743	18	1,761	—	1,761

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

当第1四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2021年12月31日)
顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計
	スーパーマー ケット事業		
商品の販売(売上高)	32,309	122	32,432
その他(営業収入)	228	3	232
顧客との契約から生じる収益	32,538	126	32,665

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業と葬祭事業であります。

2. 四半期連結損益計算書上の営業収入に含まれる顧客との契約から生じる収益以外の収益は、当第1四半期連結累計期間において340百万円であります。

(重要な後発事象)

(譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)

当社は、2022年1月14日開催の当社取締役会において、譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分を行うことを決議し、下記のとおり実施いたしました。

1. 処分の概要

(1) 払込期日	2022年2月4日
(2) 処分する株式の種類及び数	当社普通株式 4,487株
(3) 処分価額	1株につき 2,187円
(4) 処分総額	9,813,069円
(5) 処分先及びその人数並びに処分株式の数	取締役(社外取締役を除く) 5名 2,884株 取締役を兼務しない執行役員 7名 1,603株

2. 処分の目的及び理由

当社は、2020年11月13日開催の取締役会において、当社の社外取締役を除く取締役(以下「対象取締役」といいます。)に対する当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブの付与及び株主の皆さまとの一層の価値共有を進めることを目的として、当社の対象取締役を対象とする新たな報酬制度として、譲渡制限付株式報酬制度(以下「本制度」といいます。)及び業績連動型株式報酬制度を導入することを決議し、また2020年12月18日開催の第55期定時株主総会において、対象取締役に対して、本制度に基づき譲渡制限付株式取得の出資財産とするための金銭報酬として年額50百万円以内の金銭報酬債権を支給すること及び譲渡制限付株式の譲渡制限期間として30年間で当社の取締役会が定める期間とすることにつき、ご承認をいただいております。